

神奈川支部情報

第5号

発行日 2007年6月8日

<発行者> 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

<連絡先> 松山英司 TEL/FAX 046(871)4263

e-mail mt-h-uk@tbc.t-com.ne.jp

郵便振込口座 00190-2-114578

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部は去る5月13日、かながわ労働プラザにおいて第5回支部総会を開催しました。引き続いて元中帰連会員の久保寺さんと中央大学の姫田先生をお招きして**戦争体験の証言と講演の集い**（5・13証言・講演集会）開催しました。神奈川支部が再出発して開催した、昨年の**絵鳩さん証言集会**に引き続いて50名を上回る参加者で、盛大な集会となりました。

久保寺さんは今も畑を耕しておられ、日焼けしたお顔は86歳の年令を感じさせませんでした。昨年、帰国後50年を経て初めて小田原で証言をされて、今回2回目の横浜で証言をしていただきました。「私が生きているうちに、まさか憲法9条が変えられるなんて考えてもみなかった。今こそ身をもって侵略戦争を担ってきた自分が声を出さなければ！」と、自らが体験された事実を訥々と話してくださいました。

つづいて姫田先生は、久保寺さんのお話しがどんなに大切なことかを説明され、自ら「久保寺さんの応援演説」と言って締めくくられた講演は聞いていた私たちにも考えさせられることばかりでした。

以下、姫田先生の講演の一部を紹介します。

前後しますが、久保寺さんは何ヶ月もかけてコツコツと書いてこられた原稿を集会後にお預かりしました。几帳面な文字が並んだ久保寺さんの原稿に基づいて、改めて皆さまに報告します。

日中戦争の傷跡と人間性<5・13神奈川支部講演：証言集会姫田先生講演>

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」でのお話し（2007年5月13日）**レジュメ**

中央大学教授 姫田光義

（1）久保寺さんの貴重なお話しを受けて（中帰連誌上のインタビューも）

- ・ 生き証人の証言の貴重さと信憑性をめぐる論議（『正論』が敵視する中帰連）・・・「洗脳か翻身か」という私の小論
- ・ 圧倒的に多い被害証言と少数の加害証言－被害者の証言は無条件で信じ、加害者の証言は無条件で否認する（「自虐史観」だという）

（2）日本人の歴史好きと日中戦争

- ・ 英雄豪傑才子佳人への庶民の憧れ、英雄待望論（信長・秀吉・家康から最近一番読まれているといわれている佐伯泰英の小説まで）
- ・ 他方では義経や「忠臣蔵」や大岡越前がなぜもてはやされる？—— 「判官最良」庶民の味方という幻想

- ・ 要するに身内最良とムラ（メダカ・・・本田勝一の言葉）社会意識を底辺にした血統主義・新貴族社会への憧れ・・・その頂点に天皇
それが一番端的に現れているのが日中戦争における加害と被害の認識の仕方・・・北朝鮮拉致事件への対応

（３）根本問題は日中戦争が侵略戦争だった（対華侵略戦争）、それ故に中国側から見れば「抗日戦争」だったという単純な歴史事実の認定・・・国際常識・・・が通用しない社会

（４）このままでは日本は危うい

- （ア）そ国内では民主主義を否定する新貴族社会・・・わずか 20 万人が政治を決める？
- （イ）国際的には無恥で無反省な民族という批判・・・常任理事国どころか孤立化と反発、テロの標的
- （ウ）やはり焦点は憲法問題に帰着する。
- （エ）れゆえ、平和・日中友好（アジアと世界の平和と友好）と人間の善意・翻身を信じる運動・・・「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」の役割が極めて重要だという結論になる。

講演

私は学生の諸君によく言います。スポーツも結構、おしゃれも結構、お料理も楽しんでください。しかし、それらはすべて平和と健康な生活を守ることの保証がなければなりません。これは日本国憲法の問題です。この前提たるべき平和ということについてもっと考えなくてはならない。そのように考えると今の私たちの生活をどう守っていくのか、ということやはり平和ということと密接な関係がありますね。そのことを歴史の上からしっかりと学んでほしい、と。

無知と

いま、「ムチの力」が日本を覆っています。「ムチ」には二つあります。一つは「無恥」、恥知らずです。もう一つは「無知」、知識がなさ過ぎることです。学生たちに試験を出します。「南京事件」とか「三光作戦」とか、「従軍慰安婦」などについては学生たちは知らないのです。先生の話聞いて初めて知った、という学生がほとんどです。皆さん、どう思われますか。これは「無知の力」が日本を支配していることの現れの一つではありませんか。

だからこそ久保寺さんの貴重なお話を聞

いていただくことや、それを受け継いで「受け継ぐ会」がしっかりやって下さっていることは本当に大切なことです。季刊「中帰連」39号に久保寺さんのお話が掲載されています。今日の話を聞いた上でもう一度ぜひ読んでいただきたい。

この中で久保寺さんのお話に感動したと同時に、今日ここに根本さんはおられますか？その根本さんが「久保寺さんが証言するまで」というドキュメントを書いています。根本さんはお若い世代の方だと聞いています。

久保寺さんが今日このように皆さんの前でお話しするまでに、どんなに心の葛藤があったことでしょうか。そのことを考えると私は涙が出る思いがします。周りからは「身内の恥」とか「村の恥」などと誹謗、中傷されながら勇気を持ってお話しいただけるということはどれほど大きな意味があることでしょうか。それを若い人が引き出してくれたことにもどれだけ大きな意味があることでしょうか。

じっさいに100万人以上の軍隊の体験者がいたわけですから、その中でどれほどの証言が残っていますか。そのことを考えると一人一人の証言を引き出すことはどんなに大切なことか。たしかに731部隊の話、「従軍慰

安婦」の話し、南京大虐殺の話などいろんな人たちからの証言を得ています。だが、まだまだごく一部にしか過ぎません。しかしそのような証言をして下さる方たちはどんどんいなくなってしまうています。そのような中で中帰連の方たちが真実を語って下さること、「受け継ぐ会」がサポートし、広げる活動をしていることはたいへん大きな意味があります。

無恥

もう少し詳しく整理したいと思います。もう一つの「無恥」について、そもそもあの戦争を「侵略戦争であった」という事実を認めないという「無恥」についてです。私の友人の吉見義明君たちが調べて探し出してきた「従軍慰安婦」の資料や、笠原十九司さんが探し出した南京大虐殺の資料を政府はまったく見ていないのです。知っていて知らんふりをしているのです。

そして「軍の命令書が無かったから証拠は無い」という。それならば北朝鮮に拉致されたあの事件について、北朝鮮政府の命令書があったのでしょうか。あるはずがないでしょう。北朝鮮の拉致に関してはあれだけ同情が巻き起こり、ついには「北朝鮮へ先制攻撃をかけろ！」とまで暴論が飛び出しているこの日本の世論と、「軍の命令書が無いから従軍慰安婦は無かった」という冷たい態度、この二つの落差をどのように考えればいいのか。

私はよく言うのですが、北朝鮮による拉致が事実として認識できれば被害者や家族の証言が信じられるのですね。ところが「正論」や「諸君」の緒論文は「中国人の言うことは頭から信じない」という認識で書かれていますね。恐ろしいですね、人間の心は……。何を言っても信用しないのです。だから逆の意味で自分

の罪を認識するということはどれだけたいへんなことでしょうか。

被害証言や加害証言を徹底的に否定する精神構造、心理状態の根拠はなんでしょうか。若者たちも感情的に、心理的に（あのような非道いことを）日本人がやったことを認めたくないと言う気持ちが先立ちますよね。その感情や心理から歴史を見ると加害証言は全部無視したくなりますし、証言者はウソを言っている、ということにしたいくなります。

「南京大虐殺についてどれだけ多くの誹謗、中傷が行われているか、です。重箱の隅を突つつくような非難が行われています。例えば、「当時南京市内に100万人も住民がいなかった」という。たしかのそれは事実です。80万人くらいはいたはずが、その80万人の住民でなぜ30万人も殺せるのか、30万人は東京ドームを6杯分だという。それほどの人を機関銃で殺せるのか、という議論があります。

何も1日や2日で行われたことを南京事件と言っているわけではない。上海上陸戦から始まって、1937年12月13日に南京が攻略されて、17日に松井石根が入場行進をした。その日まで約3ヶ月間のことを言っているのだということです。（否定したい人は）「3日間に南京城内30万人殺せない」ということだけをずーっと言っているのです。このまま（議論を）続けてもしようがありません。その上中国人の証言は一切認めないと頭から決めつけて言うのですから。

根本は「侵略戦争」を認めないこと

（このように被害証言も加害証言も南京大虐殺も認めない、中国人の言うことは頭から信用しないということの）その根本は、日本の侵

略戦争の事実を認めないということです。侵略戦争を認めず、過去の歴史を認めないということは、これからも日本は侵略戦争を行うという前提の認識です。「自衛のため」という理由ではじめた戦争が侵略戦争であったわけで、その侵略を認めなければこれからも「自衛のための戦争」を行うということになります。外国へ派遣しても、先制攻撃を加えても「自衛のため」ならばいいということになっていきます。私が今一番恐れているのは「先制攻撃でもいいではないか」という議論です。日本は「自衛」「自衛」と言っているがどのように「自衛」するのか。日本列島周辺にハリネズミのように何10万本の迎撃ミサイルを張り巡らせるのか。そんなことができるわけがないでしょう。だいいち誰が敵なのか。どこからミサイルが飛んでくるのかも認識していない。だから敵のミサイルが飛んできて守りようがない。だから必ず先制攻撃をかけないと日本は守れない、という議論になります。「自衛のための戦争」なんてウソだ。

また現状の自衛隊でそれ（先制攻撃）ができますか。できませんよ。そうすれば必然的に若者たちを徴兵制に組み込むための議論に必ずなります。そうしなければいま言われているような「自衛のための戦争」なんてできるわけがありません。

このような話を別のところでもしました。（これから話すことは）冗談ですよ。こんな話もありました。「自衛のために」どうしても戦争をしなければいけないのなら老人がやればいいではないか、と。ミサイル攻撃から守るにはミサイルで対抗しなければならないでしょう。ミサイルのボタンを押すだけならば老人にでもできるではないか、ということでした。

もちろんいまの話は冗談ですが、とにかく今

の戦争は一旦始めたらもう止まらないのです。ようするにどうしたって守れないのです。昔の戦争とは違うのです。（戦争が始まれば）ミサイルが飛んでくるのです。そんなことにならないためにこそ平和憲法があるのではないですか。ということをおは学生たちによく言います。

ハリネズミのように迎撃ミサイルを張り巡らすなんてできない。だから「敵だ!」となれば自分から先にミサイルを撃ち込むことになります。それが侵略戦争なのだ、ということです。学生たちも事実を知れば戦争をやってはいけない、外交、話し合いで解決する以外にないという結論に達せざるを得ないのです。なぜこんな簡単な論理がわからないのでしょうか。不思議で仕方ありません。

そこで話しをもどします。「今すぐにも戦争を始めよ!」「中国を攻撃しろ!」「北朝鮮を攻撃しろ!」と読める新聞の広告や電車の宙ぶり広告などの大洪水ですよ。あの人たちは本気で戦争をやる気でいるのか、中国との関係をぶっ壊すつもりでいるのかと・・・ゾッとしますね。

そこで改めて久保寺さんのお話から、「無知の力」を克服し、歴史の事実をもっともっと認識する必要があります。私たち一人一人がいま、教師も市民も教科書からだけではない真実を心から話していくことが問われています。中帰連の皆さんの大きな責務を受け継いで行く世代の大きな責務でもあります。また、今日参加の皆さんの力添えが必要です。中帰連の方方の、またそれを受け継ぐ会の意のあるところをお汲みとりいただき、どうぞご支援をお願いします。以上、私の久保寺さんへの「応援演説」とさせていただきます。ご静聴ありがとうございます。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部第5回総会報告

2007年5月13日13時より、証言：講演集会に先立ち、かながわ労働プラザの於いて第5回支部総会を開催しました。総会で決定した経過、及び方針、会計、役員などについては以下の通りです。

＜出席者：松山、安島、天野、倉形、倉形、神谷、長塚、田村＞

1、2006年度の経過、及び会計報告について

(1)経過報告

- 1、昨年2月19日に開催した＜神奈川支部再建総会＞以降、それまで数年ブランクを取り戻しつつ、着実に受け継ぐ会活動を行ってきました。「行動経過」にあるように、9月18日には神奈川支部として初めての集会を開催することができました。また東神奈川の「孝道山」(お寺)や平和団体からの要請に基づく証言集会も開催することができて、受け継ぐ会の目的は大きく前進しました。
- 2、一方、小田原地区を中心に会員が大幅に加入して、湘南グループの活動がめざましく、すでに二回の大きな証言集会が大成功のうちに開催されました。
- 3、また受け継ぐ会にとつての念願であった「中帰連平和記念館」がオープンし、記念すべき年でもありました。記念館は昨年11月3日に埼玉県川越市にオープンしました。神奈川支部として見学会を開催しました。それ以降、関東各支部の会員でローテーションを組んで会館の当番を担当しています。神奈川支部も分担しています。記念館はNPO法人として登録しました。
- 4、行動、及び行事経過

2006年

- ・ 2月19日 第4回神奈川支部総会
- ・ 3月26日 第3回受け継ぐ会全国総会
- ・ 4月22日 第1回支部会
- ・ 6月4日 第2回支部会
- ・ 7月29日 証言集会(絵鳩さん)(三浦半島9条連主催)
- ・ 8月5日 第3回支部会
- ・ 9月10日 小田原証言集会(絵鳩さん)(湘南G主催)
- ・ 9月18日 神奈川証言集会(絵鳩さん)
- ・ 9月22日 柳条湖事件一記念学習会(熊谷さん講演)(神奈川歴史教育を考える会主催)
- ・ 10月1日 9条フェスタ2006(大井町きゅりあん)
- ・ 10月15日 小田原証言集会(久保寺さん)(湘南G主催)
- ・ 10月29日 第4回支部会
- ・ 11月3日 「中帰連平和記念館」オープニングセレモニー
- ・ 11月12日 「孝道山」証言集会(絵鳩さん)
- ・ 12月3日 第5回支部会
- ・ 12月9日 絵鳩さん証言集会(「平和憲法を守る会」主催)

2007年

- ・ 1月24日 ドロタさん、アントニオさん、絵鳩さんへのインタビュー
- ・ 2月12日 「中帰連平和記念館」見学会(湘南G主催)
- ・ 2月17日 「中帰連平和記念館」見学会・第6回支部会(平和記念館で)
- ・ 4月8日 第7回支部会
- ・ 4月14日 内山さん訪問(倉形、倉形、松山)
- ・ 4月22日 東京支部総会、野田正彰さん講演会(平和記念館)
- ・ 5月5日 観藤会(千葉支部)
- ・ その他3月以降、川越の記念館への当番を月2回づつ担当しています。(これまでの当番担当者、松山、

田村、天野、倉形、倉形)

- ・毎月開催した本部運営委員会、及び必要の都度開催されるNPO法人「中帰連平和記念館」理事会には松山が出席しました。(松山を理事に登録しました)

5、神奈川支部情報発行について

「神奈川支部情報」を創刊号から4号まで発行しました。

2006年度会計報告

収入実績		予算		実績	
繰越金	83,749				
会費	62,000 (3,000×7+2,000×20)	大会費	10,000	8,620	
		会議費	6,000	13,000	
カンパ	12,000	情宣費	6,000	5,616	
利子	47	事務費	12,000	31,488	
		予備費	83,749	41,900	
		本部納入	28,150	28,150	1,000×28+150(送料)
		繰越金		28,942	
合計	157,796		145,899	157,796	

* 予備費: 中帰連の方、記者へ「赦しの花」プレゼント、湘南G活動援助などです。

* 会場費、事務費が予算をオーバーしました。

* 結果、繰越金が大幅に少なくなりました。

2、2007年度活動方針

経過で見たように、昨年はそれまでの停滞から脱却して、取り戻して受け継ぐかい神奈川支部もようやく軌道に乗ってきました。1年間の経過にふまえて以下の通り取り組みます。

- ① 2ヶ月に1回ペースで全会員を対象とした支部会を開催します。
- ② 支部会ではできるかぎり中帰連の方たちの聞き取りができるようにお願いしてみます。
ビデオ、中帰連誌の読み合わせや講師をお願いしての学習会など組み合わせて充実したものにします。
- ③ 年に1、2回は会員以外にも広く呼びかけて証言集会や映画会、講演会などを企画します。
- ④ 支部会の間の月には事務局や役員間の打ち合わせを行い、支部会、諸行事の円滑な運営を図ります。
- ⑤ 本部、及び関東各都県の支部と連絡を密にして、大きな取り組みや、平和のための中央や神奈川の諸行動に参加します。
- ⑥ 中帰連精神を受け継ぎ、拡大していくために会員のいっそうの拡大をはかります。
- ⑦ <中帰連平和記念館>の運営に積極的に協力します。
- ⑧ 日中友好、反戦平和をめざすあらゆる諸団体、諸個人と交流を深めます。
- ⑨ 支部情報(「神奈川支部情報」)を発行します。
- ⑩ 中帰連誌、関連書籍の販売を行います。中帰連誌の定期購読の拡大をはかります。
- ⑪ 受け継ぐ会本部第4回総会に出席します。(6月10日<場所:中帰連記念館>)(前日の9日には講演会を予定しています<場所:同>)
- ⑫ 神奈川支部は本部規約に準じて運営を行います。
- ⑬ 会費については今年度から3,000円とします。(本部分担金1,000円を含む)
- ⑭ 「湘南支部」の発足をめざします。地理的な条件もありますが、両支部の特徴を発揮して、より地

域密着型で、より活発な活動の展開をめざすためのもので、お互いの連絡体制と協力関係は今まで以上に緻密に行います。

神奈川支部規約について、

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部規約については、事務所を返子市返子 2-11-5-612 松山英司におくこととします。

その他はすべて本部規約に準ずることとします。

3、2007年度予算

会費納入人員を2004年度と同じ14名を基準とします。

予算総額は、前々年度から繰越金28,942+会費収入 3,000×16 人=76,942 円とします。

項 目		予算額	算出基準
会議費			
	大会費 会場費	8,000 6,000	資料作成費、郵送料、会場費 年6回(1000×6)
教宣費			
	情報作成費	6,000	年6回(1000×6)
事務費			
	通信費	12,000	支部会連絡、情報の発送 本部、他府県支部との通信連絡
本部分担金		16,000	1,000×会員数
予備費		28,942	
合 計		76,942	

4、2007 年度役員

当日講演をしていただきました姫田先生に、神奈川支部の顧問をお願いをしました。先生は快く受けていただきました。よろしくお願いします。

〈顧問〉 姫田光義

〈代表〉 松山英司 〈事務局長〉 田村英則 〈運営委員〉

〈会計〉 松山英司 〈会計監査員〉 天野左千夫

当面の行動について

- ① 篠塚さん講演集会、湘南支部結成総会 6月13日14:00、17:00より
- ② 6月9日 14:00より本部総会前夜行事、自己紹介、ビデオ上映、図書移動作業、懇親会
- ③ 10日 10:00より本部総会 9日、10日共中帰連平和記念館で行います。
- ④ 神奈川支部支部会 7月8日 神奈川県民サポートセンター ミーティングルーム712 (部屋がとれました)

議題1、支部総会、証言集会の反省と今後の取り組みについて

- 2、湘南支部結成報告、本部総会、近隣各支部総会報告
- 3、秋の取り組みの検討 4、その他

*** 初めての方も、どうぞお気軽に参加してください。**

- ⑤ 9条フェスタ 9月29日 10:30～ きゅりあん(品川区立総合区民会館：JR大井町駅徒歩1分)

＜お願い＞ 07 年度会費未納の方は後協力をお願いします。年間3000円です。

湘南支部結成報告

6月3日に湘南支部が結成しました。

昨年神奈川支部が再出発した直後の時期から、小田原市内を中心とした地区でも受け継ぐ会の重要な意義を見いだした人たちが、地域に密着した活動を開始しました。1年間の活動を経て、この度神奈川支部の「湘南グループ」としての活動からさらに飛躍して「湘南支部」として発足することになりました。これからは神奈川支部としても共に手を携えて協力・共同関係を強化しながらお互いの支部の発展を期したいと思います。

以下、湘南支部新代表を引き受けられた青さんのメッセージを紹介します。

湘南の青 英権です。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会湘南支部を6月3日に設立しました。以下、その主旨と経過を報告します。

「私たちは幸いにも中帰連の方たちがその生死をかけて克ちとられた真の人間精神を手渡されるという機会に恵まれています。まさに奇蹟と呼ぶほかないこの貴重な精神的遺産に大いに学び、それを受け継いでいくことによって、ほんとうの意味で平和と民主主義を、ひいては人間の未来を守るために献身することのできる心を持ちたいと思います。」

2006年4月、私たち小田原市とその周辺地域に在住する十数名は、上記のような呼びかけのもとに集まって、神奈川県支部の湘南グループとして、地域での活動を始めました。

具体的な目標としては、この地域にご健在の元中帰連会員の方々と交流し、お話を聞かせて頂き、その貴重なご体験を記録し、共有させていただくことや、すでに老境を迎えられて、中帰連＝受け継ぐ会との連絡も途絶えがちになっておられる元会員にも積極的に働きかけて、心をつなげていきたいことなどを手始めに、活動の可能性を求めてまいりました。

グループ結成お披露目の記念集会として茅ヶ崎市在住の絵鳩毅さんの講演会を開催することと、近隣地域在住の三名の元会員の方との接触を得るための活動の開始でグループは動き始めました。県支部代表の松山さんがグループの月例会に必ず参加して惜しまず援助してくださり、たいへん心丈夫でしたが、初めての経験であり、試行錯誤を繰り返しながらの実践でした。

幸いなことに九月の絵鳩講演会は予測をはるかにこえる二百名の参加者を迎えて成功をおさめることができました。矍鑠たる九十三歳の絵鳩さんが諄々と語り尽くして下さる日本軍国主義の加害の事実は、聴くものの胸に平和への深い思いをよび起こさずにはおかぬ感動的なものでした。

この間に併行して進めていた元会員に対する接触のなかから、秦野市在住の久保寺尚雄さんをご訪問することができました。とんとん拍子に話が進んだ結果、グループとしてはやや強行日程となりましたが、好機逸すべからずと第二回目の集会を十月に開催しました。この時も百名をこえる参加者を迎え、ある意

味で絵鳩さんとは好対照の久保寺さんの人間性の滲み出るお話しに耳をかたむけました。たまたま会に参加してくれたアメリカの青年が質疑応答の場で、戦後日本の平和はアメリカの核の傘によるものではないか、との質問に、それは違うという明確な答えを返され、憲法九条の意義を示されたことは特に印象的でした。

現在、18名の会員がグループに所属し、その顔ぶれは十代から八十歳近くまでさまざまです。 各々の仕事と生活を通して撫順の奇蹟をさらに自分の血肉となし、周囲の人びとにそれを知らせていくことを念願し、互いに切磋琢磨しています。

今後の活動計画としては、まだ実現していないお一人の元中帰連会員への訪問が急務ですが、ねばり強く接触を求めてなんとかして困難を打開したいと思っています。

集会としては、さしあたり十月中旬に北海道の大河原さんをお招きして、講演会と学習会を計画しています。

久保寺さんの地元、秦野での集会の計画も実現にむかって引き続き努力していこうと思いますが、さしいわいその可能性が開けてきています。

そのほかこれまで講師を引き受けてくれた留学生の卒業で中断している中国語クラスの再開によってさらに日中交流を深めていくことや、今回、創刊した支部報「ゆるしの花」を通じて地域からの文化の発信を続けていきたいことなど夢を膨らませています。

グループとして一年の活動を経ましたが、これまでややもすると県支部におんぶしてもらうことになりがちでした。 今日支部創立記念篠塚良雄講演会の開催を期して広く一般に入会を呼びかけるとともに、湘南支部としてあらためて出発することを決意するに至りました。

篠塚講演会の参加者は120名弱に達し、聴衆からの密度の高い質疑もあり、講演の内容に感動したアンケートが多く寄せられて好評のうちに終わりました。

これまでの地域活動の積み重ねにささやかながらまたひとつの成果を加えることができたようです。

引き続いて支部設立総会で、上記の経過報告と会員紹介の後、総会に参加してくださった方々の拍手により支部の誕生と代表の選出を承認していただきました。

忙しい中をご参加下さった久保寺さん、篠塚さん、熊谷全国事務局長、荒川事務局員、平和記念館の芹沢さん、埼玉支部の野村さん、星野さん、県支部の松山さん、田村さん他の方々に加えて、当日、入会を希望された新会員も含めて多くの方々の祝福の拍手のなかで新支部（代表・青 英権）の誕生が確認されました。

ここまで温かく見守って下さった県支部松山さんはじめ、各機関、各地区のみなさんに敬意と感謝を捧げます。受け継ぐ会の今後いっそうの充実した活動を期して、全国で第十二番目の支部として新たな出発をしたいと思います。

ちなみに今回新加入を申し出られた方は計4名、うち会費納入者は2名でした。支部会員は20名となり、他に2名の方が加入される見通しとなりました。

上記、支部報「ゆるしの花」創刊号を各支部あてにお送りしますのでご高覧ください。

以上、ご報告します。 全国の会員、および「受け継ぐ会」を見守ってくださる多くの志しと同じくする先進的な市民のみなさまが、これからも私たちを力強く導いて下さることを心からねがっています。

どうもありがとうございました。

2007年6月4日

撫順の奇蹟を受け継ぐ会 湘南支部

（一）本會對於各縣分會之組織，均應遵照本會之組織規程辦理，其組織規程，應由各縣分會擬具，呈請本會核准後，方得施行。

（二）本會對於各縣分會之經費，應由各縣分會自行籌措，其籌措方法，應由各縣分會擬具，呈請本會核准後，方得施行。

（三）本會對於各縣分會之業務，應由各縣分會自行辦理，其辦理方法，應由各縣分會擬具，呈請本會核准後，方得施行。

（四）本會對於各縣分會之報告，應由各縣分會定期呈報，其報告內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（五）本會對於各縣分會之考核，應由各縣分會定期呈報，其考核內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（六）本會對於各縣分會之獎勵，應由各縣分會定期呈報，其獎勵內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（七）本會對於各縣分會之懲戒，應由各縣分會定期呈報，其懲戒內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（八）本會對於各縣分會之解散，應由各縣分會定期呈報，其解散內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（九）本會對於各縣分會之合併，應由各縣分會定期呈報，其合併內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十一）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十二）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十三）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十四）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。

（十五）本會對於各縣分會之其他事項，應由各縣分會定期呈報，其其他事項內容，應包括業務執行、經費收支、會員人數等項。